

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.164

## a taste of Ya'ssy

### 田中 康夫



たなかやすお ●'56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。小説「33年後のなんとなく、クリスタル」を'14年に河出書房新社から上梓。【公式ブログ】http://www.nippon-dream.com/



## 権威を否定していたはずの媒体を、権威へと変容させていくデモ行進

### 今週の逸品



赤坂もり 950円

奇しくも日本の高齢化率が7%を超え、高齢化社会元年を迎えた1970年創業の「一点張」。味噌ラーメン一筋。写真は揚げ大根150円と共に撮影の赤坂もり。何れも750円のみそ・合わせ・辛みそ。北海道味噌と京味噌を程よく調合。昨今は奇を衒った具材や味付けが幅を利かず札幌の事情とは一線を画し、王道を歩む。3個200円の餃子に加えて焼豚と野菜の和え物500円も絶品。秘伝の辛味調味料で独自味付けも可。

【一点張】東京都港区赤坂3-7-9 一点張ビル ☎03-3583-6051  
営11:00~翌4:00 日祭定休

illustration by Hajime Anzai



「大きな声で正義を語る人は、往々にして偽善を身に纏う。」  
『ピーナッツ』の主人公チャーリー・ラウンに由来し、「ウィークリー・チャーリー」をフランス語で意味する『シャルリ・エブド』は、「権威」や「権力」の表と裏の「落差」を看破し、揶揄する媒体でした。あなた方が信じ込まされている「印象」こそ「裸の王様」なのだ、と市井の人々を覚醒する当世風「瓦版」としての。

とも呼ぶべき『シャルリ・エブド』の囁きは、極めて厄介な、唾棄すべき存在だったでしょう。  
が、歴史とは予測不能で不可解な代物。その2年後、花の都・巴里に参集した40ヶ国以上の指導者がデモの先頭に立ち、「今こそ報道の自由を殺すな」と唱和する驚天動地の「映像」が世界中を駆け巡るとは。遙か離れた日出国でも指導者が、「怒りと哀しみを禁じ得ない」と南麻布の仏蘭西大使館へ記帳に訪れました。

を断罪した閣僚の一人は今、如何なる感想を抱いているでしょう。  
でもね、何だか不思議じゃありませんか？ 日本で噓えたらなら嘗て僕が、社会を慨嘆しつつ異性と「交接」する「東京ペログリ日記」を連載していた「噂の真相」を護らねば、とデモ行進する類いの事象しかもね、便所の落書きよりも始末が悪い、と休刊する日を心待ちにしていた苦の「政官財学報」の面々が、あろう事か。

「全土で370万人が参加し、革命歌『ラ・マルセイーズ』を唱和した『Je suis Charlie』私はシャルリ」運動が、為政者に好都合な大政翼賛運動と化してしまふ危険性を「私は憂慮する」。

企画編集会議に遅刻して辛くも難を逃れたりユツツなる筆名の風刺漫画家が若者雑誌「レ・ズインロック」で違和感を表明したのも宜なる哉。だって、権威を否定していた苦の「シャルリ・エブド」を「権威」に変容させていくデモ行進だったのですから。  
無論、テロは許されざる愚行・蛮行。が、国家が正式に移民として受け入れ、今や人口の1割を占めるイスラム教徒は「社会の屑」で「破産者」と高言し、殊更に「迫害・疎外」してきたのは、ユダヤ系ハンガリー移民2世のニコラ・サルコジ前大統領でした。「製造物責任法」に該当する御仁だとフランスで指摘される所以です。  
それは、内閣総理大臣が議長を務める経済財政諮問会議「選択する未来」委員会が昨年2月24日、「目指すべき日本の未来」として内閣府が提出し、現在も内閣府HPに掲載されている「移民を年20万人ずつ受け入れた場合1億1000万人程度を維持」との「破綻した計画経済の如き大本営発表」と無縁であろう苦もありません。  
永田町に隣接する赤坂の地で45年。「一点張」の味噌ラーメンを食べながら、これからの日本を憂慮する本稿は次号に続きます。